

「令和7年度子どもを守ろうプロジェクト事業IN大野城」寄贈式開く 子供たちの安全を願い、県交通安全施設業協会が大野城市に施設工事寄贈



「子どもを守ろうプロジェクト事業IN大野城」寄贈式の関係者記念撮影

福岡県大野城市（堤かなめ市長）と（一社）福岡県交通安全施設業協会（田中賢哉会長）は19日、大野城市役所の全員協議会室で「令和7年度子どもを守ろうプロジェクト事業IN大野城」の社会貢献活動に伴う寄贈式を開催した。この事業は同協会が毎年度行っているボランティア活動で、今年度が第8回目。式では将来を担う子供たちの事故防止への願いを込めた交通安全施設設置工事の目録書が田中会長から堤市長に贈呈され、子供たちや高齢者の交通安全対策に大きく貢献するものとして期待されている。

「子どもを守ろうプロジェクト事業IN大野城」は11月10日～13日までの4日間。大野城市の大野小学校と月の浦小学校の通学路関係を対象に、会員社の双葉工業㈱（星子洋満社長）と日本ディックライト㈱（田中賢哉社長）が工事施工を担当し、立体横断歩道線・停止線（1箇所）や区画線（延長1,117m）、文字記号（延長177m）、路面標示シート（2箇所）、横断防護柵（延長37m）、交差点赤枠（1箇所）を設置した。

この日の寄贈式には、大野城市から堤市長、元主浩一教育長、若山純哉教育部長、野村聰都市整備部長。協会から田中会長、星子洋満副会長、高野敏治副会長（有）エスアーレシステム）、総務・広報委員長の井上晋作氏（交通器材㈱）、防護柵委員長の中島啓輔氏（双葉工業㈱）、事務局の



挨拶の田中会長



挨拶の堤市長

田井晴彦局長が出席。大野城市建设管理課の宇都宮係長の司会で進行。出席者紹介、プロジェクト事業の経過説明が行われた。

続いて、協会の田中会長は「わたくしどもは、福岡県内の道路標識・区画線・防護柵等の道路交通安全施設の施工業者で結成。今年で設立9年目を迎え、正会員・賛助会員103社の団体。社会の少子化が進む中、子供たちの大好きな命が奪われるという痛ましい交通事故が多数発生して

おります。わたくしども、交通安全事業に携わる者として、大変ショックなニュースでした。行政におかれましても、様々な対策を講じられていることと思われますが、わたくしどもも、業界をあげて、子供や高齢者の交通安全対策に貢献できるよう努力したいと考え、福岡県内でこの「子供を守ろうプロジェクト事業」を行ってまいりました。第8回目の今回は、大野城市で実施することができました。この贈呈した施設が、地域の子どもたちの安全を守り、また、大野市の交通安全対策事業の一助となれば幸いです。子どもたちは未来の日本を創っていく大事な宝です。来年度以降も、当協会の重要な事業として、行政をはじめ関係者の御協力を得ながら継続して実施していきたい」と挨拶した。

このあと、田中会長が工事目録書を読み上げ、堤市長に目録を贈呈。これを受けて、堤市長は「福岡県交通安全施設業協会のみなさまにおかれましては日頃より、交通安全施設の調査研究や技術の研修に励むとともに、本事業のような社会貢献活動を積極的に進めておられますことに、心より敬意を表します。本市におきましても地域の交通安全への意識は高まっております。また、西鉄の高架に伴う道路状況の変化や施設の経年劣化、物価の高騰なども重なり、交通安全施設の整備にかかる費用は、年々増加しているところです。このような中、今回、通学の安全対策として、目録にもございましたたくさんの施設をご寄贈いただきましたことに、心より感謝申し上げます。ご寄贈いただきました施設は、市でしっかりと管理し、交通事故の防止に、役立てていきたい」とお礼の挨拶をした。引き続き、関係者の記念撮影があり、意見交換が行われた。



堤市長と田中会長の寄贈式記念撮影